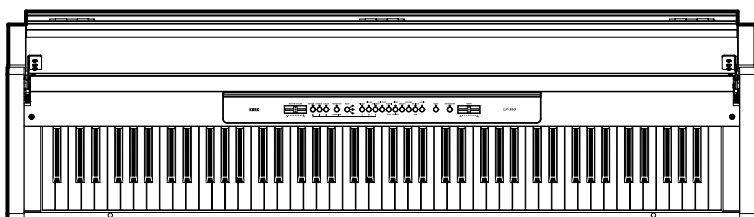


LP-350

DIGITAL PIANO



取扱説明書

KORG




安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	●記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- ACアダプターのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ACアダプターのプラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。
- 本製品はコンセントの近くに設置し、ACアダプターのプラグへ容易に手が届くようにする。



- 次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターのプラグをコンセントから抜く。
 - ACアダプターが破損したとき
 - 異物が内部に入ったとき
 - 製品に異常や故障が生じたとき修理が必要ときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



- 本製品を分解したり改造したりしない。
- 修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。
- ACアダプターのコードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、ACアダプターのコードの上に重いものをのせない。

コードが破損し、感電や火災の原因になります。

- 大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。

万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

- 本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。
- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。
- 振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- 風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。
- 雨天時の野外のように、湿気が多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。
- 本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。
- 本製品に液体をこぼさない。



- 濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、危害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ACアダプターをコンセントから抜き差しするときは、必ずプラグを持つ。

- ・本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。



- ・長時間使用しないときは、ACアダプターをコンセントから抜く。



- ・付属のACアダプターは、他の電気機器で使用しない。

付属のACアダプターは本製品専用です。他の機器では使用できません。

- ・他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしてない。

本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。

- ・スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。

故障の原因になります。

- ・外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。

- ・不安定な場所に置かない。

本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

- ・本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。

本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

- ・本製品の隙間に指などを入れない。

お客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

- ・地震時は本製品に近づかない。

- ・本製品に前後方向から無理な力を加えない。

本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のスタンドについて



- ・取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方」に従って確実に設置する。

本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

データについて

本製品の電源をオフにすると、全てのパラメータが工場出荷時の設定に戻ります。

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。大切なデータは、あらかじめ他のメディア等へセーブしておいてください。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱説明書の表記について

本体のスイッチ類は[]で括弧しています。



は使用上の注意を表します。

演奏を楽しむためのエチケット

音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。

また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。

* MIDIは社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) の登録商標です。

* すべての会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

おもな特長	6
第1章	7
各部の名称とその機能	7
フロント・パネル	7
トップ・パネル	8
リア・パネル	9
第2章	10
演奏する前に	10
ACアダプターの接続	10
キー・カバーの開閉のしかた	11
ヘッドホンを使うとき	12
電源を入れる	12
音量の調節	13
ライン・アウト端子の接続	13
デモ・ソングを聴いてみよう	14
すべてのデモ・ソングを演奏する	14
特定のデモ・ソングを演奏する	15
デモ・ソングのテンポを調整する	15
第3章	16
弾いてみよう	16
音色を選ぶ (シングル・モード)	16
2つの音色を重ねて演奏する (レイヤー・モード)	17
エフェクト (リバースとコーラス)	17
ペダルを使う	18
レイヤー・モード時のペダルの設定	19
メトロノーム	19

第4章	22
他の機能	22
鍵盤タッチ・コントロールの設定	22
トランスポーズ	22
ピッチ・コントロール	23
音律を選ぶ	24
第5章	25
MIDI	25
MIDI (ミディ) とは?	25
MIDI でなにができるの?	25
MIDI の接続	25
MIDI の基本設定	26
送信チャンネルの変更	26
マルチ・ティンバー音源として使う	27
ローカル・オン/オフ	27
プログラム・チェンジ	27
コントロール・チェンジ	29
MIDI データ・ダンプ	29
第6章	31
付録	31
故障とお思いになる前に	31
最大発音数について	31
仕様	32
スタンドの組み立て方	33
組み立て時の注意	33
組み立て方法	33
組み立て後のチェック	38
その他の注意	38
SOUND スイッチ機能一覧図	39
鍵盤機能一覧図	39
MIDI インプリメンテーション・チャート	40

おもな特長

30種類の高品位サウンド

ステレオ・コンサート・グランドピアノを含む、表現力豊かな高品質の音色を30種類内蔵しています。本機は、1つの音色で演奏するシングル・モードと、同時に2つの音を重ねて演奏するレイヤー・モードを搭載しています。

エフェクト

コンサート・ホールの自然な雰囲気やシミュレーションすることができるリバーブと、音の広がりを加えることができるコーラスの、2つのエフェクトを搭載しています。

ペダル・シミュレーション

アコースティック・ピアノと同じように3つのペダルを装備し、それぞれ、ダンパー、ソステヌート、ソフト効果が得られます。また、ダンパー・ペダルとソフト・ペダルはハーフ・ペダルとして機能し、ペダルを踏み込む深さで効果のかけ具合を変化させることができます。

ペダル・ユニット

ペダル・ユニットの位置は、前後に移動することができます。身長や体型に合わせて調整してください。

メトロノーム

拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセントとしてベルの音を使用できるメトロノームを内蔵しています。

タッチ・コントロール機能

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選択できます。

音律

平均律の他に、2種類の古典音律（キルンベルガー、ヴェルクマイスター）を選択することによって、古典音楽等の再現も可能になります。また、アコースティック・ピアノの音色を選んだときは、ピアノ独特のストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

音の高さの調節

トランスポーズ機能により移調を、ピッチ・コントロール機能により音の高さを微調整することができます。

MIDIの装備

電子楽器やコンピューターの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。MIDIを使うと、接続した機器間で相互にコントロールことができ、本機を16パート・マルチ・ティンバー音源としても使用することができます。

スピーカー内蔵

ピアノの豊かなサウンドを美しく響かせる10cm x 2のスピーカー、11W x 2のアンプを内蔵しています。ピアノ独特の重厚な響きを奏でます。

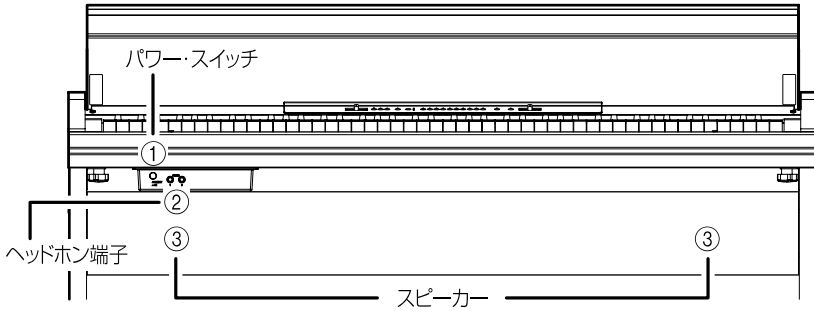
2つのヘッドホン端子

ヘッドホン端子が2つ装備されていますので、2人で演奏を楽しむことができます。

第1章

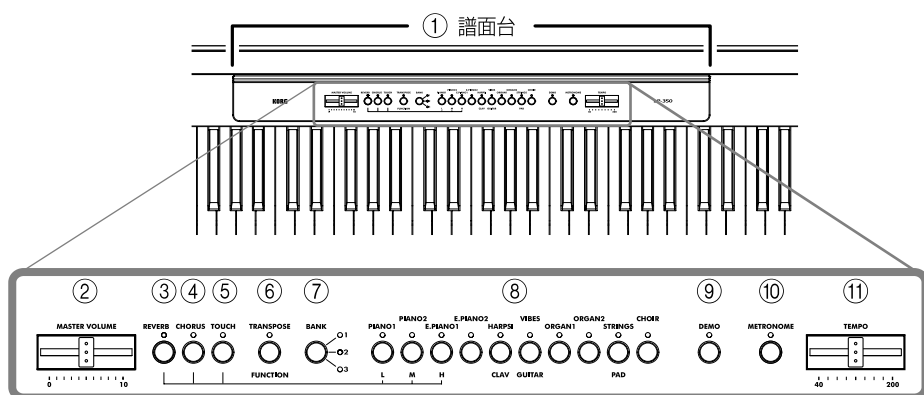
各部の名称とその機能

フロント・パネル




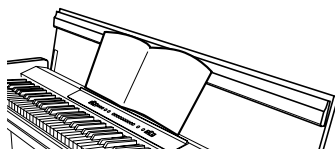
- ① **パワー・スイッチ**: 電源のオンとオフを切り替えます。
- ② **ヘッドホン端子**: 標準プラグのヘッドホンを、2つまで接続することができます。ステレオの標準端子です。
音量は、MASTER VOLUMEスライダーで調整します。ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーからは音が出ません。
- ③ **スピーカー**: スピーカーでピアノ演奏を楽しむことができます。


トップ・パネル



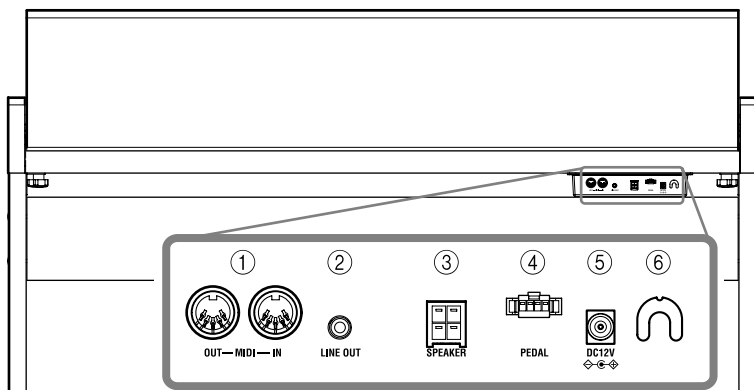
- ① 譜面台: 譜面を置きます。


 譜面を開いたまま固定するときは、キー・カバーに強い力を加えないでください。



- ② **MASTER VOLUME**スライダー: 内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、そしてライン・アウト端子からの音量をコントロールします。
- ③ **REVERB**スイッチ: 音に残響音を加えるリバーブの、オンとオフを切り替えます。
- ④ **CHORUS**スイッチ: 音に広がりを与えるコーラスの、オンとオフを切り替えます。
- ⑤ **TOUCH**スイッチ: 鍵盤のタッチ (感度) を選びます。
- ⑥ **TRANSPOSE/FUNCTION**スイッチ: 移調、ピッチ、音律やMIDIに関する設定等に使います。
 電源をオフにすると、すべての設定が工場出荷時に戻ります。
- ⑦ **BANK**スイッチ: 使用する音色を3つのバンクの中から選びます。
- ⑧ **SOUND**スイッチ [PIANO 1/L]~[CHOIR]: 音色を選択します。音色は全部で30 (10 x 3バンク) あります。
- ⑨ **DEMO**スイッチ: デモ・ソングを演奏します。SOUNDスイッチで30 (10 x 3グループ) のデモ・ソングを選ぶことができます。
- ⑩ **METRONOME**スイッチ: メトロノームをスタート、ストップします。
- ⑪ **TEMPO**スライダー: メトロノームのテンポを調節します。

リア・パネル



- ① **MIDI (IN, OUT) 端子**: 他のMIDI機器 (シーケンサー、キーボードなど) を接続します。
IN: MIDI情報を受信します (本機をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUTと接続します)。
OUT: MIDI情報を送信します (本機からコントロールする外部MIDI機器のMIDI INと接続します)。
- ② **ライン・アウト端子**: アンプ付きスピーカーのインポート端子や、音響機器のAUX IN端子などと接続します。ステレオのミニ端子です。
音量は、MASTER VOLUMEスライダーで調整します。
- ③ **スピーカー端子**: スピーカー・ケーブルを接続します。
- ④ **ペダル端子**: ペダル・ケーブルを接続します。
- ⑤ **DC IN端子**: 付属のACアダプターを接続します。
 ACアダプターは必ず付属のものをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。
- ⑥ **コード・フック**: ACアダプターのコードを引っかけます。

第2章

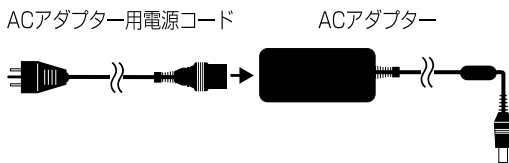
演奏する前に

ACアダプターの接続

1. 本機の電源がオフになっていることを確認します。

2. 付属のACアダプターにACアダプター用電源コードを接続します。

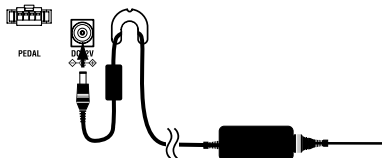
⚠ 必ず、付属のACアダプターとACアダプター用電源コードをお使いください。他のACアダプターやコードを使用した場合、故障の原因となります。



3. 本機リア・パネルにあるDC IN端子にACアダプターを接続します。

4. コード・フックにACアダプターのコードを引っかけます。

⚠ コードをフックからはずすときは、無理に引っ張らないでください。



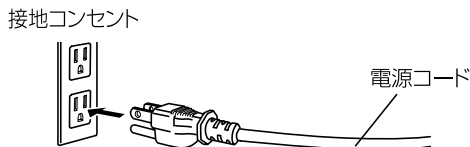
5. コンセントにACアダプターを接続します。

感電と機器の損傷を防ぐために、アース接続を確実に行ってください。

⚠ 電源は必ずAC100Vを使用してください。


接地コンセントに接続する場合

接地コンセントに、ACアダプター用電源コードのプラグをそのまま差し込んでください。

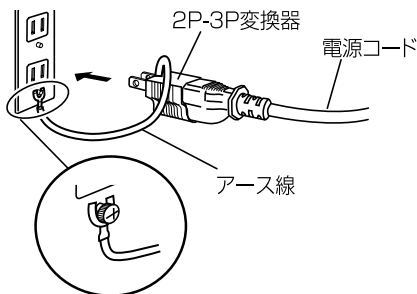


アースターミナル付きコンセントに接続する場合

ACアダプター用電源コードのプラグに、2P-3P変換器を取り付けます。そして、コンセントのアース端子にアース線を接続し、2P-3P変換器のプラグを差し込みます。

 アース接続は、コンセントにプラグを差し込む前に行ってください。また、アース接続を外すときは、コンセントからプラグを抜いてから行ってください。

アース端子付きコンセント



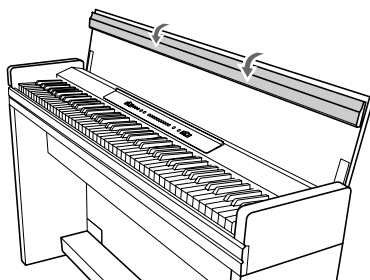
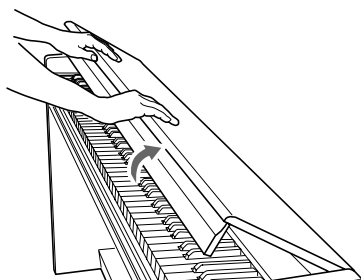
2P-3P変換器のアース線のU字端子にカバーが付いている場合は、カバーをはずしてください。

キー・カバーの開閉のしかた

キー・カバーは、簡単に開閉することができます。

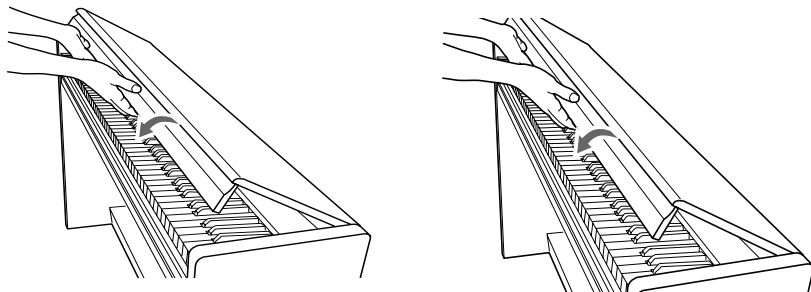
キー・カバーの開け方

1. キー・カバーを両手で持ち上げて、静かに開けます。



キー・カバーの閉じ方

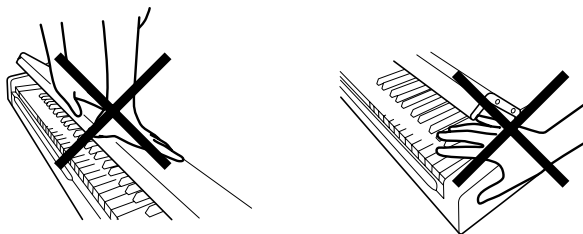
1. ふちを引き上げ、キー・カバーを手前に軽く引きます。



2. キー・カバーが自然と閉じるようになったら、キー・カバーから手を離します。

キー・カバーは、途中から自然に閉まる構造です。

- ⚠ キー・カバーを閉じるときは、無理に力を加えないでください。また、キー・カバーの上から強い力で押さえないでください。
- ⚠ キー・カバーを閉じるときは、指や手を挟まないように十分注意してください。



- ⚠ キー・カバーが閉じるときにかかる時間は、使用時の温度や湿度により、若干変化します。

ヘッドホンを使うとき

ヘッドホン端子に、標準プラグのヘッドホンを接続してください。ミニ・プラグのヘッドホンを接続する場合は、ヘッドホンのプラグに「ミニ→標準」の変換プラグを使うと、接続することができます。

- ⚠ ヘッドホンを抜き差しするときは、プラグ（または変換プラグ）を持って行ってください。

ヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを差し込むと、本機のスピーカーから音は出ません。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときは、ヘッドホンをお使いください。

- ⚠ ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために、大きな音量で長い時間聴かないでください。

電源を入れる


パワー・スイッチを押して、本体の電源を入れます。このとき、フロント・パネルのSOUNDスイッチやBANKスイッチ等の上のランプが点灯します。

電源を切るときは、もう一度パワー・スイッチを押してください。

音量の調節

内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、ライン・アウト端子の音量を調整するときは、MASTER VOLUMEスライダーを動かします。


音量を小さくするときはスライダーを左側へ、大きくするときはスライダーを右側へ移動します。

-  音量を調整するときは、MASTER VOLUMEスライダーを0の位置から徐々に右側へ移動し、音量を少しずつ上げてください。

ライン・アウト端子の接続

ライン・アウト端子は、内蔵スピーカー以外のアンプ付きスピーカーや、音響、録音機器などと接続するときに、それらの機器のインプット端子と接続します。

ライン・アウト端子は、ステレオのミニ端子です。接続する機器に合わせて、市販の接続コードを使って接続してください。

-  本機や接続する機器の電源をオフにした状態で接続してください。電源をオンにしたまま接続すると、本機や接続した機器等を破損したり、誤動作を起こす原因となります。

デモ・ソングを聴いてみよう

本機には、グループ1～3にそれぞれ10曲、合計30曲のデモ・ソングが入っています。
デモ・ソングを聴いて、本機の豊かな音色とその表現力を確認してください。

SOUNDスイッチ	グループ1	グループ2	グループ3
[PIANO 1/L](1)	F.メンデルスゾーン プレリュード Op.104a-2	コルグ・オリジナル Reflection	C.ドビュッシー アラバスク第1番
[PIANO 2/M](2)	F.ショパン ノクターン Op.9-2	S.ジョプリン ザ・エンターティナー	J.S.バッハ 2声のインベンション No.13
[E.PIANO 1/H](3)	C.ドビュッシー 月の光	コルグ・オリジナル Jumper	F.ショパン 幻想即興曲 Op.66
[E.PIANO 2](4)	コルグ・オリジナル Lullaby for a Little Star	コルグ・オリジナル All the Ones You Don't Know	J.S.バッハ プレリュード(平均律第1番より)
[HARPSI/ CLAV](5)	L.v.ベートーヴェン エリーゼのために	J.S.バッハ イタリヤ協奏曲	コルグ・オリジナル Rubber Bob
[VIBES/ GUITAR](6)	F.ショパン 別れの曲 Op.10-3	コルグ・オリジナル Jazz in Spain	R.シューマン トロイメライ Op.15-7
[ORGAN 1](7)	W.A.モーツァルト ソナタ K.331 第3楽章 「トルコ行進曲」	コルグ・オリジナル Cool "B"	F.メンデルスゾーン 春の歌 Op.62-6
[ORGAN 2](8)	F.ショパン ワルツ 第6番 変ニ長調 「小犬」 Op.64-1	F.メンデルスゾーン ウェディングマーチ	コルグ・オリジナル Sunflowers
[STRINGS/ PAD](9)	コルグ・オリジナル Old Feather Blues	J.S.バッハ G線上のアリア	P.D.バラディーシ トッカータ 長調
[CHOIR](10)	コルグ・オリジナル Noise of Time	コルグ・オリジナル Voice Texture	コルグ・オリジナル Wet Raccoon Rag

※コルグ・オリジナル作曲/演奏: M.Tempia

すべてのデモ・ソングを演奏する

ワンタッチで、すべてのデモ・ソングを聴くことができます。

1. DEMOスイッチを押します。

SOUNDスイッチの上にあるランプが、左から右へ順番に点滅し、その約3秒後に、グループ1-(1)のデモ・ソングから順番に演奏されます。

グループ3-(10)のデモ・ソングが終わるとグループ1-(1)に戻ります。

TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながらE1の鍵盤を押しても、上記と同じ順番でデモ・ソングを聴くことができます。

ただし、手順2の操作(グループ内のデモ・ソングへの切り替え)をすることができません。

2. 演奏中に、そのグループ内の他のデモ・ソングに切り替えるときは、そのデモ・ソングが割り当てられているSOUNDスイッチを押します。

たとえば、グループ1-(1)のデモ・ソングが演奏されているときに、グループ1-(10)に切り替えるときは、SOUNDスイッチの[CHOIR]を押します。グループ1-(10)のデモ・ソングが終わると、グループ1-(1)のデモ・ソングが始まり、その後順番に演奏されます。

3. 演奏を止めるときはDEMOスイッチを押します。

特定のデモ・ソングを演奏する

デモ・ソングの演奏を、聴きたいデモ・ソングから開始することができます。

1. 聴きたいデモ・ソングが入っているグループを選びます。

グループ1を選ぶとき...DEMOスイッチを一回押す。

SOUNDスイッチの上のランプが、左から右へ順番に点滅します。

グループ2を選ぶとき...DEMOスイッチを二回押す。

SOUNDスイッチの上のすべてのランプが、同時に点滅します。

グループ3を選ぶとき...DEMOスイッチを三回押す。

隣り合ったSOUNDスイッチの上のランプが、交互に点滅します。

2. 聴きたいデモ・ソングが割り当てられたSOUNDスイッチを押します。

たとえば、グループ2-(1)のデモ・ソングから開始するときは、SOUNDスイッチの[PIANO 1 / L]を押します。

選んだデモ・ソングの演奏が終わると、そのグループ内のデモ・ソングが順番に繰り返し演奏されます。



曲を選ばない状態で約3秒経過すると、自動的にデモ・ソングのグループ1-(1)が開始され、その後順番にデモ・ソングが演奏されます。このときは、グループ1-(1)からグループ3-(10)まで、繰り返し演奏されます。

3. 演奏を止めるときは、DEMOスイッチを押します。



デモ・ソングの演奏中に鍵盤を弾いて音を出すことはできますが、SOUNDスイッチで本機の音色を変えることはできません。

デモ・ソングのテンポを調整する

TEMPOスライダーを使って、デモ・ソングのテンポを調節することができます。ただし、デモ・ソングのテンポは、TEMPOスライダーの目盛りと一致しません。



デモ・ソングが替わると、テンポはその曲のオリジナル・テンポになります。



デモ・ソングの演奏中は、メトロノームを使うことができません。

第3章

弾いてみよう

音色を選ぶ(シングル・モード)

本機は高品位な音色を30(10 x 3バンク)種類の中から選ぶことができます。

[SOUND]スイッチ	バンク1	#	バンク2	#	バンク3	#
[PIANO 1/L]	グランド・ピアノ	2	ブライト・ピアノ	2	メロー・ピアノ	2
[PIANO 2/M]	ホンキートンク・ピアノ	2	デチューン・ピアノ	2	エレクトリック・グランド・ピアノ	1
[E.PIANO 1/H]	クラブ・エレクトリック・ピアノ	2	ステージ・エレクトリック・ピアノ	1	シン・エレクトリック・ピアノ	2
[E.PIANO 2]	80'sエレクトリック・ピアノ	2	デジタル・エレクトリック・ピアノ	1	ヴァンテージ・エレクトリック・ピアノ	1
[HARPSI/CLAV]	ハープシコード	1	クラビ	1	ワウ・クラビ	1
[VIBES/GUITAR]	ビブラホン	1	マリンバ	1	アコースティック・ギター	1
[ORGAN 1]	ジャズ・オルガン1	2	ジャズ・オルガン2	2	ジャズ・オルガン3	2
[ORGAN 2]	チャーチ・オルガン1	3	チャーチ・オルガン2	1	チャーチ・オルガン3	1
[STRINGS/PAD]	スロー・ストリングス	2	ウォーム・パッド	2	ストリングス	1
[CHOIR]	クアアイアHoo	1	クアアイアDoo	2	クアアイア・パッド	2

#: 音色が使用しているオシレーターの数です(P.31「最大発音数について」を参照)

1. SOUNDスイッチを1つ選びます。

選んだスイッチの上のランプが点灯します。

2. BANKスイッチを何回か押してバンクを選びます。スイッチを押すたびに、バンクが1、2、3、1...と切り替わります。

選んだバンクに合わせて、BANKスイッチの右のランプが点灯します。

たとえば、「エレクトリック・グランド・ピアノ」を選ぶときは

SOUNDスイッチの[PIANO 2/M]を押します。そしてBANKスイッチを2回押します。

このとき、SOUNDスイッチの[PIANO 2/M]の上のランプと、BANKスイッチの右下(バンク3)のランプが点灯します。

選んだバンクは、それぞれのSOUNDスイッチに記憶されます。



電源をオンにしたときは、各SOUNDスイッチのバンクは1になります。

2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)

2つの音色を重ねた音で演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。

同じバンクの音色を重ねるときは

1. 重ねる音色のSOUNDスイッチを、2つ同時に押します。

レイヤー・モードに入り、選んだ音色のスイッチ上のランプが点灯します。


異なるバンクの音色を重ねるときは

1. シングル・モードで、それぞれのSOUNDスイッチを押したときの音色を選びます。

たとえば、メロー・ピアノとジャズ・オルガン2の音色を重ねて演奏するときは、前もって[PIANO 1/L]にはバンク3(メロー・ピアノ)を、また[ORGAN 1]にはバンク2(ジャズ・オルガン2)を選びます。

2. 手順1で選んだ音色のSOUNDスイッチを、2つ同時に押します。

レイヤー・モードに入り、選んだ音色のスイッチ上のランプが点灯します。


 選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます(P.31「最大発音数について」を参照)。

 同じSOUNDスイッチ内の音色(たとえば[PIANO 1/L]のグランド・ピアノとブライト・ピアノなど)を選ぶことはできません。

3. シングル・モードに戻るときは、SOUNDスイッチで音色を1つ選びます。

音のバランスを調節するとき

重ねる音色のSOUNDスイッチを2つ押します。そして、音量を小さくしたい側のSOUNDスイッチを押しながら、音量を大きくしたい側のSOUNDスイッチを何度か押して音量を調整します。

 電源をオフにするとレイヤー・モードの設定は消去されます。レイヤー・モードの設定は、データ・ダンプ機能を使用すると、外部MIDIデータ・ファイラーへ保存することができます(P.29「MIDIデータ・ダンプ」を参照)。


エフェクト(リバーブとコーラス)


本機は、リバーブとコーラスの2つのエフェクトを内蔵しています。


リバーブは音に残響と深みを加え、コンサート・ホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドになります。

コーラスは音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドになります。

エフェクトの設定は音色を切り替えても記憶されています。ただし、レイヤー・モードでエフェクトの設定を変更しても、シングル・モードに戻るとシングル・モードで設定したエフェクトに戻ります。

 リバーブを使用すると、最大同時発音数が10少なくなり、コーラスを使うと、最大同時発音数が3少なくなります(P.31「最大発音数について」を参照)。

 電源をオフにすると、エフェクトの設定は工場出荷時に戻ります。エフェクトの設定は、データ・ダンプ機能を使用すると、外部MIDIデータ・ファイラーへ保存することができます(P.29「MIDIデータ・ダンプ」を参照)。

 デモ・ソングの演奏中は、エフェクト(リバーブ、コーラス)の設定を変えることはできません。

1. リバーブをオンにするときはREVERBスイッチを押します。また、コーラスをオンにするときはCHORUSスイッチを押します。
それぞれのスイッチの上のランプが点灯します。
2. リバーブやコーラス効果の設定を変えるときは、REVERBまたは、CHORUSスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[PIANO 1/L]、[PIANO 2/M]、[E.PIANO 1/H]のいずれかのスイッチを押します。
リバーブやコーラス効果が、以下のように設定されます。

SOUNDスイッチ	リバーブ効果の設定	コーラス効果の設定
[PIANO 1/L]	浅い	浅い
[PIANO 2/M]	標準	標準
[E.PIANO 1/H]	深い	深い

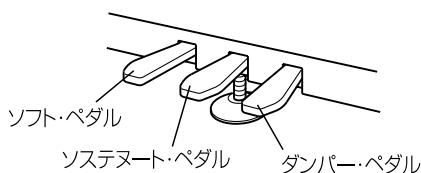
リバーブ効果またはコーラス効果の設定を確認するとき

REVERBスイッチを押すと、押している間にSOUNDスイッチ ([PIANO 1/L]～[E.PIANO 1/H]) の上のランプが1つ点灯します。そのランプの点灯で、設定を確認することができます。CHORUSスイッチを押すと、押している間にSOUNDスイッチ ([PIANO 1/L]～[E.PIANO 1/H]) の上のランプが1つ点灯します。そのランプの点灯で設定を確認することができます。

3. リバーブをオフにするときはREVERBスイッチを押します。また、コーラスをオフにするときはCHORUSスイッチを押します。
それぞれのスイッチの上のランプが消灯します。

ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類のペダルがあります。
これらを使って、演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が長くのび、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます (ハーフ・ペダル機能)。

ソステヌート・ペダル

ペダルを踏んだときに押していた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長くのびます。ペダルを踏んでいる間に弾いた音に対しては、ダンパー効果はかかりません。

ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、柔らかく、おとなしい感じの音になります。ペダルを踏み込む深さで、音の柔らかさを変化させることができます (ハーフ・ペダル機能)。

レイヤー・モード時のペダルの設定

レイヤー・モードでは、ダンパー・ペダルの効果をどちらかの音色だけにすることもできます。

⚡ この設定は電源をオフにするとリセットされます。データ・ダンプ機能を使用すると、外部MIDIデータ・ファイラーへ保存することができます (P.29「MIDIデータ・ダンプ」を参照)。

1. TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながらダンパー・ペダルを踏みます。
ペダルを踏むたびに、レイヤーで選んでいるSOUNDスイッチの上のランプが、交互または同時に点灯します。
2. ダンパーをかけるSOUNDスイッチの上のランプが点灯したときに、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチから指を離します。

メトロノーム

拍子やテンポなどを変えることができます。

メトロノームのオン、オフ

METRONOMEスイッチを押すと、ランプが点灯し、TEMPOスライダーの位置のテンポでメトロノームがスタートします。メトロノームを止めるときは、もう一度METRONOMEスイッチを押してランプを消灯します。

メトロノームの音量を調節する

音量を下げるときは、METRONOMEのスイッチを押しながらSOUNDスイッチの[STRINGS/PAD] (またはB5の鍵盤) を何度か押します。

音量を上げるときは、METRONOMEスイッチを押しながらSOUNDスイッチの[CHOIR] (またはC6の鍵盤) を何度か押します。

標準の音量に戻すときは、METRONOMEスイッチを押しながら、[STRINGS/PAD]と[CHOIR]スイッチ (またはB5とC6の鍵盤) を同時に押してください。



スイッチ (鍵盤)	設定	スイッチ (鍵盤)	設定
[STRINGS/PAD] (B5)	音量を下げる	[CHOIR] (C6)	音量を上げる

テンポの調整

テンポは、♩ = 40～200の範囲で調整することができます。

テンポの数値入力

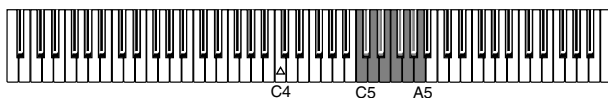
TEMPOスライダーでは、おおよそのテンポを設定することができます。正確な数値でテンポ値を設定するときは、鍵盤を使います。

1. METRONOMEスイッチを押し続けます。
2. 対応するC5～A5の鍵盤を押して、3桁の数字でテンポを指定します。

2桁の数字のときにはまず0を選んでください。

テンポを85にするときは、METRONOMEスイッチを押しながら、C5(0)、G#5(8)、F5(5)の順に鍵盤を押します。

テンポを168にするときは、METRONOMEスイッチを押しながら、C#5(1)、F#5(6)、G#5(8)の順に鍵盤を押します。



鍵盤	数字	鍵盤	数字
C5	0	F5	5
C#5	1	F#5	6
D5	2	G5	7
D#5	3	G#5	8
E5	4	A5	9


拍子の設定

小節の1拍目にアクセントが入ります。

SOUNDスイッチ	拍子
[PIANO 1/L]	2拍子(2/4, 2/8...)
[PIANO 2/M]	3拍子(3/4, 3/8...)
[E.PIANO 1/H]	4拍子(4/4, 4/8...)
[E.PIANO 2]	6拍子(6/4, 6/8...)

1. METRONOMEスイッチを押しながら、設定する拍子に対応したSOUNDスイッチを押します。小節の最初にアクセントが入ります。
2. アクセントを消すときは、METRONOMEスイッチを押したときに、ランプが点灯するSOUNDスイッチを押します。

METRONOMEスイッチを押している間は、選んだ拍子の設定を、SOUNDスイッチの上のランプの点灯で確認することができます。


 電源をオフにすると、拍子(アクセント音)が無い設定になります。

アクセントの選択

アクセントの音は変更することができます。

1. **METRONOMEスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[VIBES/GUITAR]を押します。**
アクセント音はベル音になり、[VIBES/GUITAR]の上のランプが点灯します。
2. **標準のアクセントに戻すときは、METRONOMEスイッチを押しながらSOUNDスイッチの[HARPSI/CLAV]を押します。**
[HARPSI/CLAV]の上のランプが点灯します。

METRONOMEスイッチを押している間は、選んだアクセントの音（標準、ベル）の設定を、SOUNDスイッチの上のランプの点灯で確認することができます。

 電源をオフにすると、アクセントは標準の音に戻ります。

第4章

他の機能

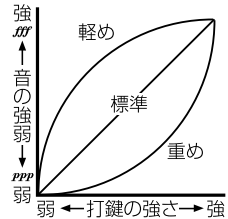
鍵盤タッチ・コントロールの設定

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。

設定を変えるときは、TOUCHスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[PIANO 1/L]、[PIANO 2/M]、[E.PIANO 1/H]のいずれかのスイッチを押します。


軽め、または重めが選ばれているときは、TOUCHスイッチの上のランプが点灯します。

タッチ・コントロールの設定は、TRANSCOPE/FUNCTIONスイッチを押しながら、B3、C4、D4の鍵盤を押すことで、切り替えることができます。



SOUNDスイッチ	鍵盤	タッチ・コントロールの設定
[PIANO 1/L]	B3	軽め...弱く弾いても強音が出せるタッチ
[PIANO 2/M]	C4	標準...普通のピアノ・タッチ
[E.PIANO 1/H]	D4	重め...強く弾かないと強音が出せないタッチ

TOUCHスイッチを押している間は、選んだタッチ・コントロールの設定を、SOUNDスイッチの上のランプの点灯で確認することができます。

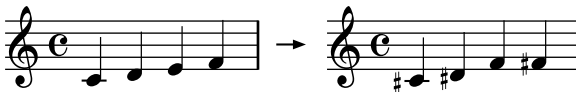
 電源をオフにすると標準の設定に戻ります。

トランスポーズ

キーを変える(移調する)と、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏することができたり、覚えたそのままの指使いで、他の楽器や歌に合わせて演奏することができます。これをトランスポーズ機能といいます。

キーは、11半音の範囲ですらすることができます。

キーを半音上げて下図の左の楽譜を弾くと、実際には右の楽譜を弾いたように聞こえます。



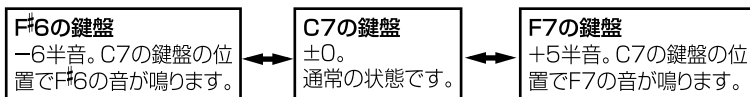
 電源をオフにするとトランスポーズは解除されます。

1. TRANSCOPE/FUNCTIONスイッチを押しながら、F#6~F7中から移調するキーの鍵盤を押します。

C7以外の鍵盤を押えると、TRANSCOPE/FUNCTIONスイッチのランプが点灯し、鍵盤全体の音の高さが移調されます。

- もとの設定に戻すときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、C7の鍵盤を押します。

スイッチのランプが消灯し、トランスポーズが解除されます。




鍵盤	キーの高さ
F#6~B6	6 ~ 1半音下げる
C7	標準(トランスポーズなし)
C#7~F7	1 ~ 5半音上げる

ピッチ・コントロール

ピッチ(音の高さ)の微調整を行ないます。

他の楽器と合奏をするときなどに、楽器間の微かなピッチのずれを、0.5Hzステップで±12.5Hz(427.5Hz~452.5Hz)の範囲で調整することができます。基準ピッチはA=440Hzです。

 電源をオフにすると、基準ピッチ(A4=440Hz)に戻ります。

- TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、B5またはC6の鍵盤を押します。
- B5の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが下がり、C6の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが上がります。
- 基準ピッチに戻すときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、B5とC6の鍵盤を同時に押します。



鍵盤	ピッチ
B5	押すたびに0.5Hz下がる
B5+C6	基準ピッチ(A4=440Hz)
C6	押すたびに0.5Hz上がる

音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、「キルンベルガー」と「ヴェルクマイスター」という古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている「平均律」の3種類の音律が選択できます。


1. TOUCHスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[HARPSI/CLAV]または、[VIBES/GUITAR]を押します。

このとき選んだスイッチの上のランプが点灯します。

SOUNDスイッチ	音律
[HARPSI/CLAV]	ヴェルクマイスター: ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターⅢスケールです。 これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。
[VIBES/GUITAR]	キルンベルガー: 18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。 これは主にハーブシコードのチューニングに使用されます。
[HARPSI/CLAV] [VIBES/GUITAR] 両方のランプが消灯	平均律: 現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

2. 平均律に戻すときは、TOUCHスイッチを押しながら、スイッチのランプが点灯している[HARPSI/CLAV]、または[VIBES/GUITAR]を押してランプを消灯します。

TOUCHスイッチを押している間は、選んだ音律を、SOUNDスイッチの上のランプの点灯で確認することができます。

 電源をオフにすると、音律は平均律に戻ります。

ストレッチ・チューニングについて

[PIANO 1/L]、[PIANO 2/M]の音色は、ストレッチ・チューニングを用いています。

ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。これは、アコースティック・ピアノが通常調律される方法です。

第5章

MIDI

MIDI (ミディ) とは?

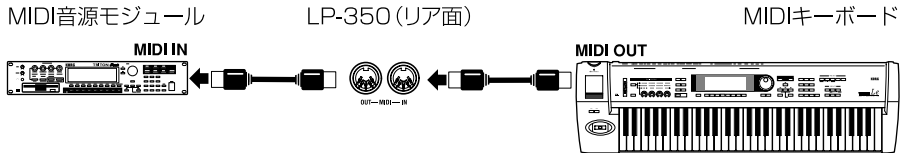
MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

MIDI でなにができるの?

MIDI を利用すると本機から他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器から本機の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数のMIDI機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

MIDI の接続

MIDI情報をやりとりするには、MIDIケーブル(別売)を使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。



MIDI OUT: MIDI情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。

本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDI IN: MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキーボードやシーケンサーなど)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。

本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。

MIDIの基本設定

電源をオンにしたときは、本機のMIDIパラメーターは下記のように設定されています。

パラメーター	設定
送信チャンネル	1
受信チャンネル	すべて受信(1~16)*
ローカルオン	
オムニオフ	

* 受信チャンネル10には、メトロノーム音(D5 \sharp , E5)が割り当てられています。このため、このチャンネルでは、プログラム・チェンジを受信することはできません。

送信チャンネルの変更

MIDIには、データのやりとりが可能なMIDIチャンネル1~16があります。

電源をオンにしたときは、送信チャンネルには自動的に1が割り当てられます。送信チャンネルを変更するときは、[TRANSCOPE/FUNCTION]スイッチを押しながら、選ぶチャンネルが割り振られた鍵盤C2~D \sharp 3から1つを押します。



鍵盤	チャンネル	鍵盤	チャンネル
C2	1	G \sharp 2	9
C \sharp 2	2	A2	10
D2	3	A \sharp 2	11
D \sharp 2	4	B2	12
E2	5	C3	13
F2	6	C \sharp 3	14
F \sharp 2	7	D3	15
G2	8	D \sharp 3	16

レイヤー・モードの場合、送信チャンネルを選ぶと、MIDIプログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)の小さい側のチャンネルが設定されることとなります。PC#の大きい側の送信チャンネルは、自動的に連続したチャンネルが割り当てられます。たとえば、MIDIプログラム・チェンジ・ナンバー(PC#)の小さい側の音色にMIDIチャンネル7を割り当てたときは、PC#の大きい側の音色は自動的にMIDIチャンネル8が選ばれます。PC#の小さい側の音色にMIDIチャンネル16を割り当てたときは、PC#の大きい側の音色はチャンネル1が選ばれます。

マルチ・ティンバー音源として使う

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる16パート・マルチ・ティンバー音源として動作することができます。

1. 本機のMIDI IN端子とシーケンサーなどのMIDI OUT端子を、MIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。

接続するシーケンサーなどからの送信方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラム・チェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラム・ナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、プログラム・チェンジの設定がイネーブルになっているときに限ります。

ローカル・オン/オフ


ローカル・オンでは、本機の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。ローカル・オフでは、本機を弾いても演奏の音は鳴らず、データだけを送信します。通常はローカル・オンに設定します。

本機をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえば本機を接続したMIDI機器（キーボード、音源モジュール等）の音色で演奏するときは、本機をローカル・オフに設定します。本機は鳴りませんが、接続したMIDI機器の音色で演奏されます。

また、本機を音源として使用する場合、たとえば本機をシーケンサーと接続して、シーケンサー側でエコーバック（シーケンサーが受信したデータを送り返す動作）を設定したときは、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときは、ローカル・オフに設定します。

ローカル・オン、オフを切り替えるときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[PIANO 1/L]を押します。押すたびにローカルの設定のオン、オフが替わります。

ローカルの設定	PIANO 1の上のランプ
ローカル・オン	点灯
ローカル・オフ	消灯

 電源をオフにすると、設定はローカル・オンに戻ります。

プログラム・チェンジ

本機からMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを送信し、接続したMIDI機器のプログラムを切り替えることができます。また、接続したMIDI機器からのMIDIプログラム・チェンジ・ナンバーを受信し、本機のプログラムを切り替えることができます。プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応については、P.28の「プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応表」を参照してください。

プログラム・チェンジの送信

本機でSOUNDスイッチとBANKスイッチで音色を選べると、対応するMIDIプログラム・チェンジ・ナンバー0～29を送信します。

プログラム・チェンジの受信

本機でプログラム・チェンジ・ナンバー0～29を受信すると、対応する音色へ切り替わります。

プログラム・チェンジ・ナンバーと音色の対応表


PC#	SOUNDスイッチ	音色バンク	音色
0	[PIANO 1/L]	1	グランド・ピアノ
1		2	ブライト・ピアノ
2		3	メロー・ピアノ
3	[PIANO 2/M]	1	ホンキートンク・ピアノ
4		2	デチューン・ピアノ
5		3	エレクトリック・グランド・ピアノ
6	[E.PIANO 1/H]	1	クラブ・エレクトリック・ピアノ
7		2	ステージ・エレクトリック・ピアノ
8		3	シン・エレクトリック・ピアノ
9	[E.PIANO 2]	1	80'sエレクトリック・ピアノ
10		2	デジタル・エレクトリック・ピアノ
11		3	ヴィンテージ・エレクトリック・ピアノ
12	[HARPSI/CLAV]	1	ハーブシコード
13		2	クラビ
14		3	ワウ・クラビ
15	[VIBES/GUITAR]	1	ビブラホン
16		2	マリンバ
17		3	アコースティック・ギター
18	[ORGAN 1]	1	ジャズ・オルガン1
19		2	ジャズ・オルガン2
20		3	ジャズ・オルガン3
21	[ORGAN 2]	1	チャーチ・オルガン1
22		2	チャーチ・オルガン2
23		3	チャーチ・オルガン3
24	[STRINGS/PAD]	1	スロー・ストリングス
25		2	ウォーム・パッド
26		3	ストリングス
27	[CHOIR]	1	クァイア Hoo
28		2	クァイア Doo
29		3	クァイア・パッド

プログラム・チェンジのイネーブル/キャンセル

プログラム・チェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

イネーブルとキャンセルを切り替えるときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[PIANO 2/M]を押します。押すたびにイネーブル、キャンセルの設定が替わります。

設定	PIANO 2の上のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯

 電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

コントロール・チェンジ

本機のダンパー・ペダルなどの情報を、接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して本機をコントロールします。

コントロール・チェンジのイネーブル/キャンセル

コントロール・チェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

イネーブルとキャンセルを切り替えるときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、SOUNDスイッチの[E.PIANO 1/H]を押します。押すたびにイネーブル、キャンセルの設定が替わります。

設定	E.PIANO 1の上のランプ
イネーブル	点灯
キャンセル	消灯

 電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

MIDIデータ・ダンプ

本機では、音色の設定やエフェクターの設定を外部のMIDIデータ・ファイラー（記憶装置）に保存し、必要ときに本機に読み込み、設定を再現することができます。

 データ・ファイラーの取扱説明書をよく読んで、データを消してしまわないように十分注意してください。

 データ・ダンプの実行中は、本体の鍵盤やスイッチに触れないでください。

データ・ダンプで保存されるデータは、下表のとおりです。

種類	データ
シングル・モード	リバーブとコーラスの設定（オン/オフ、効果の深さ）
レイヤー・モード	音量バランス、それぞれの音色へのダンパーのオン/オフ

データをデータ・ファイラーに保存

1. 本機のMIDI OUT端子とデータ・ファイラーのMIDI IN端子を、MIDIケーブルで接続します。
2. データ・ファイラーを操作して、本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
3. 本機のTRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながらSOUNDスイッチの[VIBES/GUITAR]を押します。
それぞれのスイッチの上のランプが点滅し、データ・ダンプ送信待ちの状態になります。
データ・ダンプをキャンセルするときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチまたはSOUNDスイッチの[VIBES/GUITAR]を押します。
4. TOUCHスイッチを押します。
データ・ダンプが始まり、演奏データがデータ・ファイラーに送信されます。
データの送信が終了すると、データ・ファイラーにデータが記録され、通常の演奏ができる状態に戻ります。
データ・ダンプ送信待ちの状態や、データ・ファイラーにデータを送信している間は、本機から音は出ません。

データ・ファイラーからデータを読み込む

1. 本機のMIDI IN端子とデータ・ファイラーのMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。
2. 本機のTRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながらSOUNDスイッチの[VIBES/GUITAR]を押します。
それぞれのスイッチの上のランプが点滅し、データ・ダンプ受信待ちの状態になります。
データ・ダンプをキャンセルするときは、TRANSPOSE/FUNCTIONスイッチまたはSOUNDスイッチの[VIBES/GUITAR]を押します。
3. データ・ファイラーを操作して、あらかじめ保存しておいた本機のデータを送信します。
データの送信については、データ・ファイラーの取扱説明書をご覧ください。
本機がデータを受信し、データの受信が終了すると、通常の演奏ができる状態に戻ります。
データ・ダンプ受信待ちの状態や、データ・ファイラーからデータを受信している間は、本機から音は出ません。

第6章

付録

故障とお思いになる前に

ご使用中に問題がおこった場合は、次の事項を確認してください。それでも本機が正しく動作しない場合は、コルグ・サービス・センターへお問い合わせください。

症状	対策
電源が入らない。	ACアダプターが、本機とコンセントに正しく接続されていることを確認してください。
音が出ない。	本機のボリュームが0になっていないかを確認してください。0になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。
	MIDIのローカル・コントロールがオフになっていないかを確認してください。ローカル・コントロールがオフならば、オンにしてください。
	ヘッドホン端子にプラグが接続されていないかを確認してください。ヘッドホン端子にプラグが接続されているときは、プラグを抜いてください。
音が途切れる。	最大同時発音数を越えています。次項の「最大発音数について」をご覧ください。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	ピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようとしています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、本機の不良ではありません。
接続したMIDI機器が、送信したMIDIデータに応答しない。	MIDIケーブルが、すべて正しく接続されていることを確認してください。MIDI機器と同じチャンネルで、本機がMIDIデータを受信していることを確認してください。

最大発音数について

最大発音数は60音で、これは選んだ音色で使用しているオシレーター（音源回路の1音分）の数、使用するエフェクトによって変化します。

エフェクトを使わない場合、1つのオシレーターから構成されている[HAPSI/GLAV]などの音色を選ぶと、最大同時発音数は60音です。そして、2つのオシレーターから構成されている[PIANO 1/L]などの音色を選ぶと、最大同時発音数は30音です。音色のオシレーター数は、P.16「音色を選ぶ（シングル・モード）」の表を参照してください。

エフェクトを使用したときは、発音数がリバーブで10音、コーラスで3音少なくなります。

レイヤーにして2つの音色を鳴らすとき、ダンパー・ペダルを使用するとき、エフェクトをかけるときなどは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。

音色やエフェクトの組み合わせによる最大発音数は、下記の式で求められます。

(60-エフェクト使用発音数) ÷ 音色オシレーター数 = 使用可能最大発音数

例1: [PIANO 1/L]のバンク1(グランド・ピアノ)を選んでリバーブをオンにした場合


$(60 - 10) \div 2 = 25$ (使用可能最大発音数は25)

例2: [HARPSI/CLAV]のバンク2(クラビ)を選んでコーラスをオンにした場合

$(60 - 3) \div 1 = 57$ (使用可能最大発音数は57)

本機は、前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的に鳴らす仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。

仕様

鍵盤	88鍵(A0～C8) リアル・ウェイトド・ハンマー・アクション3(RH3) 鍵盤
タッチ・コントロール	ライト(軽め)、ノーマル(標準)、ヘビー(重め)
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング
音律	平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター
音源	ステレオPCM音源
同時発音数	60(最大)
音色	30(10 x 3バンク)
エフェクト	リバーブ、コーラス(各3設定)
デモ・ソング	30(10 x 3グループ)
メトロノーム	テンポ、拍子、アクセント、音量
ペダル	ダンパー・ペダル、ソフト・ペダル、ソステヌート・ペダル
接続端子	ライン・アウト、MIDI(IN、OUT)、ヘッドホン x 2、ペダル、スピーカー端子
コントロール	パワー・スイッチ、マスター・ボリューム、リバーブ、コーラス、タッチ、トランスポーズ/ファンクション、バンク、サウンド、テンポ、メトロノーム、デモ
アンプ出力	11W x 2
スピーカー	10cm x 2
電源	DC 12V、ACアダプター(付属)
外形寸法(W x D x H)	1,353 x 277 x 777 mm 1,353 x 353 x 946 mm(キー・カバーを開け、転倒防止ブロックを装着時)
重さ	42.5kg
付属品	ACアダプター(12V、 )、ヘッドホン

仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

Sound Processed with INFINITY™

スタンドの組み立て方



警告

❗ 必ず2人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

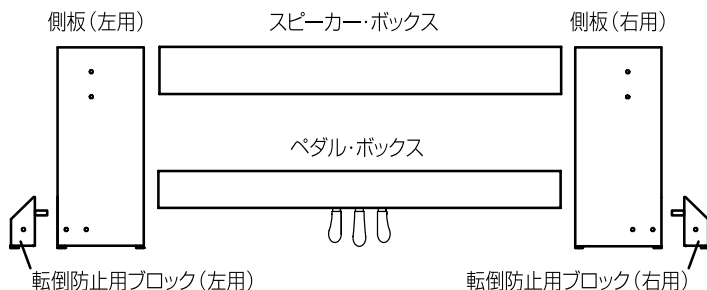
正しく安全に組み立てるためには、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- ・ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順通りに組み立ててください。
- ・ デジタル・ピアノの本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

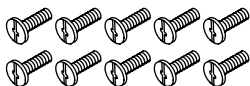
組み立て方法

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。

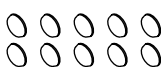
1. 下記がすべて揃っていることを確認してください。



ネジ(M6) ... 10本



キャップ ... 10個

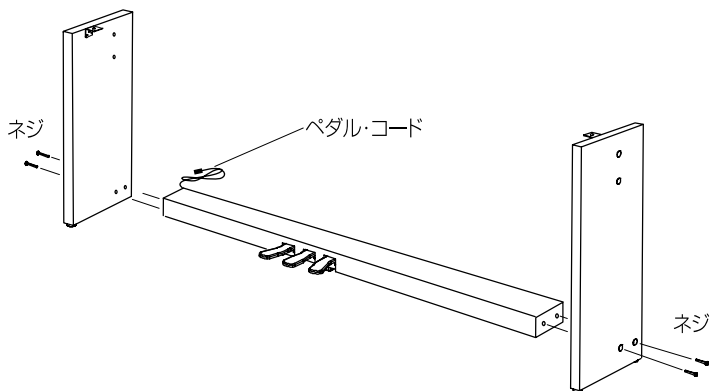


本体固定ネジ ... 2本



2. 左右の側板に、ネジ(M6)でペダル・ボックスを仮止めします。

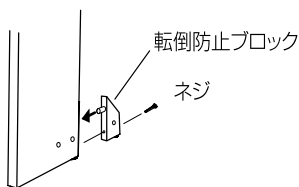
仮止めとは、隙間が2mm程度隙間が空くようにネジを締めることです。ここではネジをしっかり締めてください。



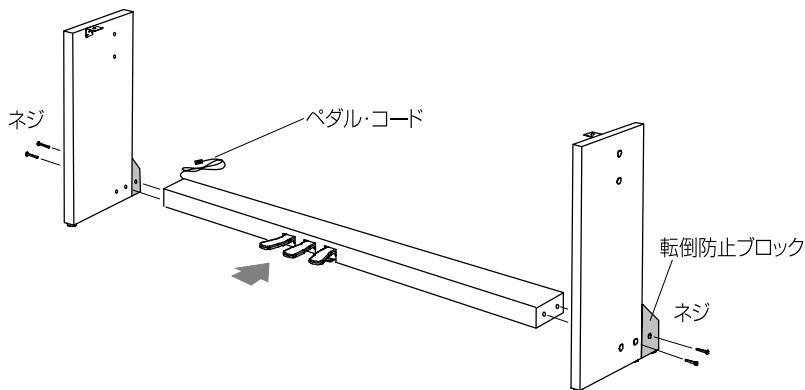
▲ 壁ぎわに設置しないときは、左右の側板の後ろに「転倒防止ブロック」を必ず取り付けてください。

転倒防止ブロックは、「ネジ穴が大きい方」をスタンドの外側にします。

スタンドに転倒防止ブロックを付け、後方からネジで留めます。このとき、側板と転倒防止ブロックの接続部分が平らになるように(段差が生じないように)取り付けてください。



側板の後ろに転倒防止ブロックを取り付けると、ペダル・ボックスの位置を後方にすることができます。身長や体型に合わせ、ペダルを使いやすい位置にしてください。




3. 側板に、スピーカー・ボックスを仮止めします。

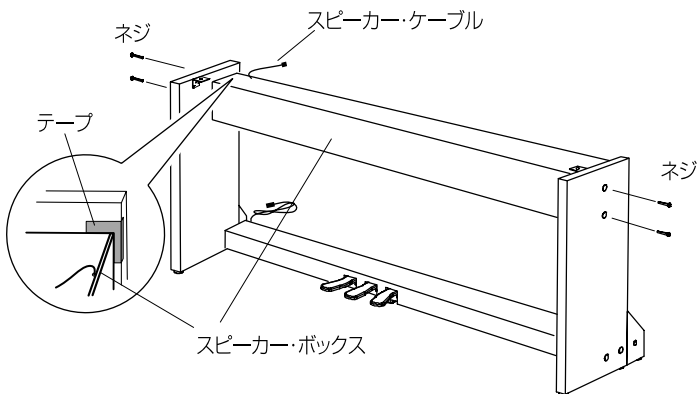
スピーカー・ボックスのスピーカー・ケーブルを、左上側（スピーカーを手前）にします。

側板には、取り付け位置を示すテープが貼ってあります。テープの内側に、スピーカー・ボックスを合わせるようにしてください。

先に左右の「上のネジ」を仮止めし、次に「下のネジ」を仮止めすると、ネジの位置が合わせやすくなります。


スピーカー・ボックスを仮止めしたら、テープをはがしてください。

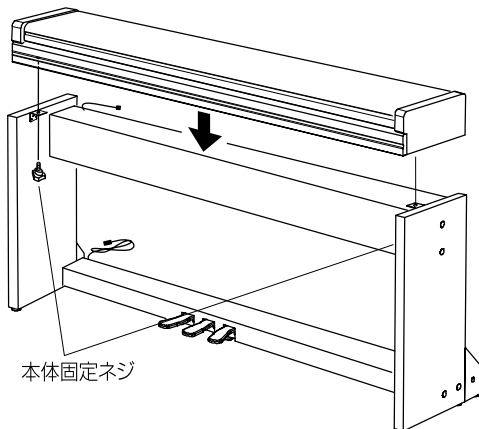
 スピーカー・ボックスが落下してけがをしないように注意してください。



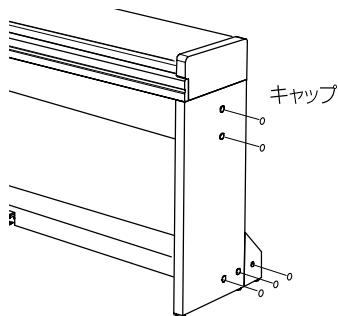
4. 本体を2人で持ち上げ、スタンドの上に乗せます。そして、本体固定ネジで、側板の金具と一緒に本体を仮止めします。

本体をスタンドの上に乗せるときは、「スタンドの角」と、「本体の角」を合わせるようにします。

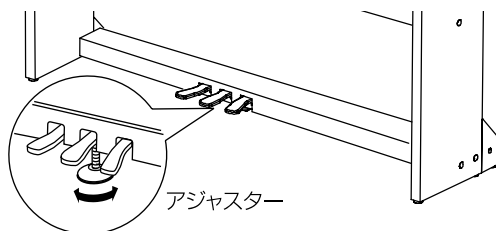
 指などを挟まないように注意してください。



5. スタンドに隙間や傾きが無いことを確認し、手順2、3で仮止めしたすべてのネジをしっかりと固定します。
6. 本体とスタンドの前後左右の段差を微調整してから、手順4の本体固定ネジをしっかりと固定します。
7. 左右の側板のネジ穴に、キャップをかぶせます。

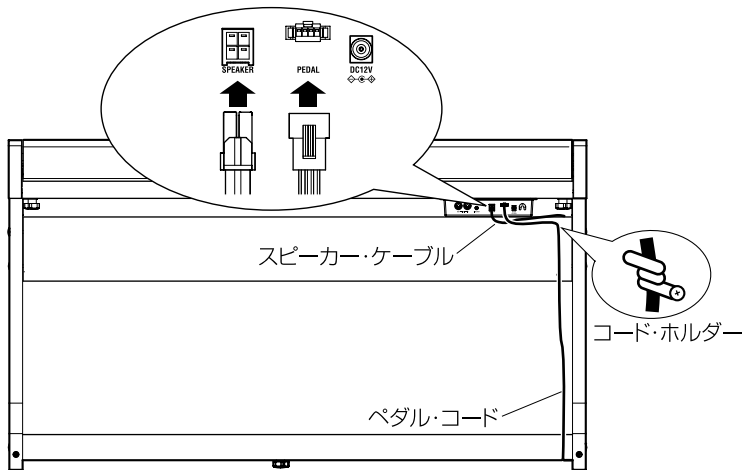


8. アジャスターをゆるめて、床にアジャスターがしっかりと密着するように調整します。
アジャスターが床に密着しないと、音のびりつきや故障の原因となります。



9. 本体のリア・パネルにある接続端子に、ペダル・コード、スピーカー・ケーブルを接続します。そして、ペダル・コードをコード・ホルダーで固定します。

▲ ペダル・コード、スピーカー・ケーブルを接続するときは、コネクターの向きに注意してください。



10. ACアダプター本体に専用コードを接続します。そして、ACアダプターのプラグをDC IN端子と接続し、コードをデジタル・ピアノのコード・フックに引っかけて固定します。詳しくは、P.10の「ACアダプターの接続」を参照してください。

11. デジタル・ピアノを設置してください。このときは、平らで安定した床かどうかを確認し、安全な場所へ置いてください。

▲ デジタル・ピアノを設置するときは、ACアダプターのコードやペダル・コードの上にスタンドが乗らないように注意してください。

▲ 安全性を高めるために、左右の側板の後ろには、常に転倒防止ブロックを取り付けて使用することをお勧めします。

組み立て後のチェック

- ・ 部品は余っていませんか？

部品が余ったときは、組み立て手順をよく見て、それらがどこで使用される部品なのかを確認してください。

- ・ すべてのネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ・ **ネジの緩みについて**

組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合は、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときは、ネジを締め直してください。

- ・ **設置場所を移動するとき**

デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「スタンドの組み立て方」に従い、組み立て直してください。

- ・ **分解について**

スタンドを分解するときは、組み立て時の逆の順番で行ってください。分解後は、ネジなどの部品をなくさないように保管してください。

SOUNDスイッチ機能一覧図

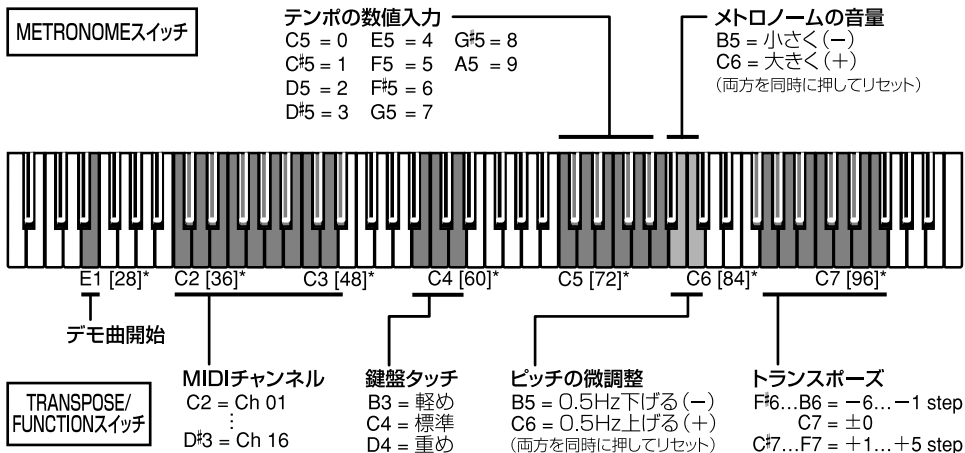
REVERB、CHORUS、TOUCH、METRONOME、TRANSPOSE/FUNCTIONの各スイッチを押しながらSOUNDスイッチを押すと、下記の表のように設定することができます。

SOUND スイッチ	[PIANO 1/ L]	[PIANO 2/ M]	[E.PIANO 1/ H]	[E.PIANO 2]	[HARPS/ CLAV]	[VIBES/ GUITAR]	[ORGAN 1]	[ORGAN 2]	[STRINGS/ PAD]	[CHOIR]
REVERB	浅い	標準	深い							
CHORUS	浅い	標準	深い							
TOUCH	軽め	標準	重め		ヴェルクマ イスター	キルンベ ルガー				
METRONOME	2/4拍子	3/4拍子	4/4拍子	6/4拍子	標準アク セント	ベル音			外ロノーム 音量小	外ロノーム 音量大
TRANSPOSE/ FUNCTION	ローカル・ オン/オフ	プログラム・ チェンジ イネーブル/ キャンセル	コントロール・ チェンジ イネーブル/ キャンセル			データ・ ダンプ				

鍵盤機能一覧図

METRONOMEまたはTRANSPOSE/FUNCTIONスイッチを押しながら、機能が割り振られた鍵盤を押すと、下記の図のように設定することができます。

*はMIDIノートNo. です。



[デジタル・ピアノ]
LP-350

MIDIインプリメンテーション・チャート

2008.10.23

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1-16	1 1-16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	× *****	3 ×	
ノート ナンバー:	音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1-127 ×	○ 9n, V=1-127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×	○	
コントロール チェンジ	7 11 64 66 67	○ × ○ × ×	○ ○ ○ ○ ○	ボリューム *1 エクスプレッション *1 ダンパーペダル *1、*3 ソステヌートペダル *1 ソフトペダル *1、*3

	91	○	○	リバーブ	*1
	93	○	○	コーラス	*1
	120, 121	×	○	オールサウンドオフ、リセットオールコントロール	
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	○ 0—29 *****	○ 0—29 0—29		*2
エクスクルーシブ		○	○	サウンドデータダンプ	
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×	×		
リアルタイム:	クロック コマンド	×	×		
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	×	○ ×		*4

備考

*1：コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。

*2：プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。

*3：ハーフペダルの出力値 (0, 38, 74, 127)。

*4：レイヤー・モードから、シングル・モードに戻るときと、ローカル・オフにしたとき送信する。

モード1: オムニオン、ポリ

モード2: オムニオン、モノ

○: あり

モード3: オムニオフ、ポリ

モード4: オムニオフ、モノ

×: なし

MIDI Implementationの配布については、コルグお客様相談窓口へお問い合わせください。

保証規定 (必ずお読みください)

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類(ヘッドホンなど)は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はご購入日より1ヶ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有償となります。
 - ・消耗部品(電池、スピーカー、真空管、フェーダーなど)の交換。
 - ・お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
 - ・天災(火災、浸水等)によって生じた故障。
 - ・故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
 - ・不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
 - ・保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
 - ・本保証書の提示がない場合。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。

This warranty is valid only in Japan.

4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなる場合がありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損害につきましては、弊社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無償修理をお約束するもののため、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

コルグLP-350

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無償修理をお約束するものです。

お買い上げ日 年 月 日

販売店名

アフターサービス

■保証書

本製品には、保証書が添付されています。お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

■保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

■保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

■保証期間経過後の修理

修理することによって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。ただし、補修用性能部品(電子回路など)に機能維持のために必要な部品の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

■修理を依頼される前に

故障かな?とお思いいなったら、まず取扱説明書をよくお読みの上、もう一度ご確認ください。

それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

■修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

■ご購入・ご相談について

修理のご際のご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。

商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です
This Product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

お客様相談窓口 TEL 03(5355)5056

● サービス・センター:

〒168-0073 東京都杉並区下高井戸 1-15-12

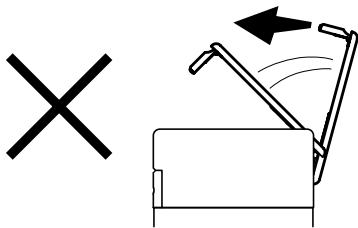
TEL 03(5355)3537

FAX 03(5355)4470

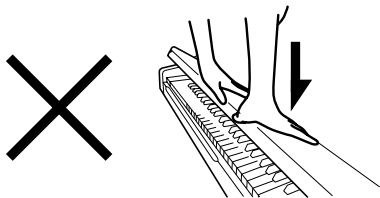
キー・カバーを閉じるときの注意

故障の原因となりますので、次の行為は絶対に行わないでください。

キー・カバーを、強く引っ張って閉じようとする。



ゆっくり閉じる動作中に、上から無理に押さえつける。



キー・カバーを閉じるときは手前に軽く引き、自然にゆっくり閉じるようになったら、キー・カバーから手を離してください。ゆっくり閉じるときに「カチッ」という異音がありますが、不良や故障ではありません。